

# どんなにでもある工業材料を組み合わせて造る家

ローコストを目指すあまり、建材や部材の質を落としてしまうのはナンセンス。住宅用に造られたものでなくとも、十分に活用できる良質の素材は、実は日常にたくさん転がっている。そんな発想の転換法を、建築家・武井貴志さんに伺った。

インテリアショップに収納棚を買に行ったのに、気に入ったものがなかなか見つからず、全く別の店(工具店など)でびったりのものが安く手に入った。そんな経験はないだろうか。本来は特定の用途にしか使われないものも、少し視点を変えてみると、思いがけず別の用途に転用できるケースがある。この考え方を住宅の世界に適用したのが、建築家の武井貴志さん。

2年ほど前、武井さんは栃木県のYさんの住宅を設計する際、建材メーカーのショールームに向かうかわりに、建設業者の資材置き場や設備業者の倉庫、アウトドアショップやDIYショップなどに足しげく通った。奇をてらった素材を使って変わった家を建てようと思いついたわけではない。施工側が提示した予算(2000万円程度)をクリアするため、部材でコストダウンを図れないかと考えたからである。「50代の施主が、それまで離れて暮らしていた20代の息子夫婦と同居するのを機に、築20年以上の木造住宅を建て替えることになりました。すでに施主は住宅メーカーに見積もり依頼をしていたのですが、息子さん夫婦が『画

一的な住まいは嫌だ』と抵抗して、以前友人の家を設計した私を訪ねてきたのです。息子さん夫婦と話してみたから、予算はないけれど、シンプルで洗練された心地よい住まいにしたいという思いがヒシヒシ伝わってきました。そこで、通常の住宅建材・部材ではない材料を使えば、コストダウンも図れるし、施主が望む空間が造れるのでは、と考えたのです」と、武井さん。

## ガス管が主役のキッチン

建設仮設用の鋼管、ガス管、登山用のフック……。これらは、住宅部材ではないが、いずれも機能重視で造られたもののゆえの独特の存在感があり、しかも安い。武井さんはガス管を組み合わせてキッチンカウンターとダイニングテーブル、洋服掛けなどを設計してしまっただけで、洒落たインテリアショップで販売されてもおかしくない、見事な仕上げとなった。ガス管が居室の中央に堂々と姿を見せることなどきわめて稀な事態だが、よくよく見ると、かなりいい「面構え」をしていることが分かる。いぶし銀とも言うべきか、安っぽさがまったくない。



1階の親世帯居室と3階の子世帯居室のクッションの役目を果たすのが写真の2階リビング。中央に構えるのが、ガス管で骨格を組んで合板を乗せただけのキッチンカウンターとダイニングテーブル。剥き出しの鉄骨の梁とも相性がいい。



■武井貴志 1956年栃木県生まれ。日本大学工学部建築学科卒業、更田建築事務所を経て、90年テイクス設計事務所を開設、現在に至る。栃木県建築士会理事等もつとめる。〒028-638-3730 (テイクス設計事務所)

これと同じものを特注でつくることになると、かなりの金額になるはずだ。「デザインよりも機能性を追求して造られた部品だけに、なによりつくりがしっかりしているところが気に入りました。ガス管などは太さの種類も豊富で、ネジ山も統一されているので、いかにしても組み合わせられます。何か使えるものはないかという視点で探していくと結構いろいろ見つかるものです。息子さん夫婦と一緒にDIYショップに行って、数百円の部品を物色したりもしましたし、設備業者の倉庫なども、宝の山でしたな」

## 大工手間を省いてコストダウン

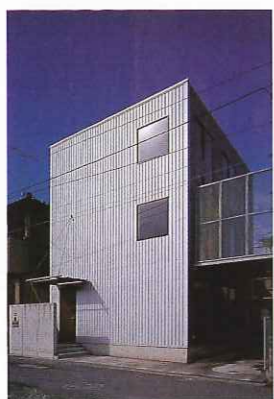
武井さんは、どこにでもあり「拾ってきたような」材料を使い、熟練した職人でなくても組み立てられるディテールを設計することで、全体のコストダウンを図ろうとした。施工会社には、「特別な人はいらない。ガス管を切ることができて、ネジを締めることができる人なら誰でもいいから」と頼んだ。技術のある職人でなければ造れない設計であれば、それだけ人件費がかかり、総コストがはね上がる。つまり、いい部材を安く調達すること、現場の手間を減らすことが、ローコストの鍵になると睨んだのだ。

結果的に、長い付き合いの施工会社は腕のある職人を現場にまわしてきたので、当初のねらいとはズレはしましたが、それでも金額的にはかなり抑えてやっってもらったという。

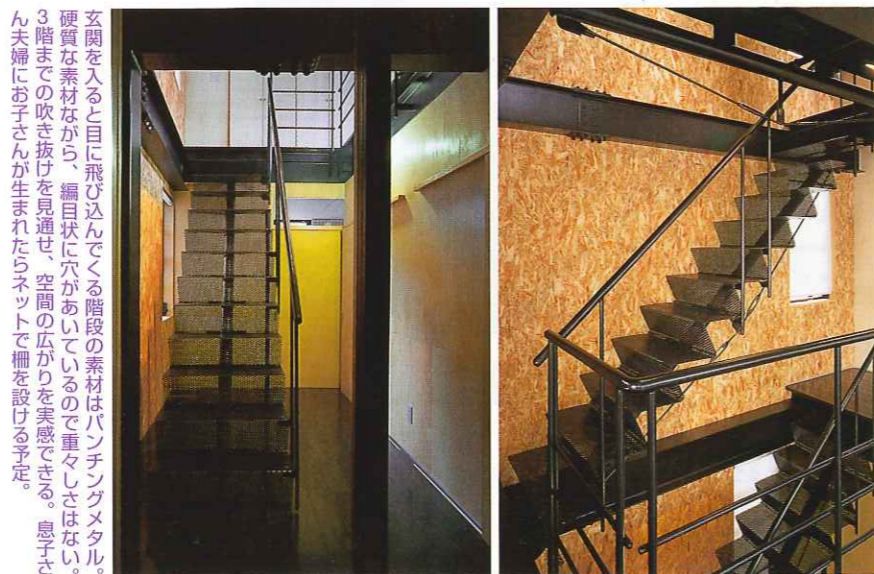
「今回はいい職人に手掛けてもらって施主にとってはラッキーだったと思いますが、本来の私のねらいは『どこにでもある材料で、誰にでも造れる』ことにあるのです。むしろ、その辺にある土や木を駆使して家を造っていたように、身近に転がっている工業部品を使いこなして家造りをするのができれば、お金をかけなくてもいい家ができておくと考えています。私のような小さな設計事務所は、例えて言うとうちの魚を売るスーパーマーケットではなく、中落ちやアラだつて旨いよと教える町の魚屋みたいなものです。「あ、そんなところも食べられるのか」とか、「そんな調理法があったのか」とか、気づいてもらえる提案をしていきたいし、施主も、最初から「アラはちょっとと不定定するのではなく、こちらの話に聞く耳をもつてほしい。お互いがそういう気持ちで共有できれば、ローコストでありながらクオリティの高い住宅を造ることは可能だと思いますよ」

武井さんは3000万円から5000万円規模の住宅を手掛けることも多いが、「予算はないけど、いい家にしたいんです」という熱意のある施主のほうが面白いんですよ」と笑う。他の建築家が建材メーカーのショールームで打ち合わせをしている際に、武井さんは今日もどこかのDIYショップで新たな素材を「発見」しているに違いない。ガス管とジョイントだけで造った家なんていうのも、ちょっと見てみたい気がするのだが。

DATA  
総工費/2090万円  
所在地/栃木県宇都宮市  
家族構成/親夫婦+息子夫婦  
規模/敷地面積 102.00㎡  
建築面積 59.29㎡  
延床面積 143.86㎡  
1階 49.28㎡  
2階 45.30㎡  
3階 49.28㎡  
構造/鉄骨造3階建て  
竣工/1999年4月



建て売り住宅が並ぶ町並みに忽然と現れたメタリックな箱、といったイメージの外観。素材は比較的安価で丈夫なガルバリウム鋼板。玄関の底は、建設現場の足場用パイプとナマコ板を組み合わせて造った。



玄関を入ると目に飛び込んでくる階段の素材はパンチングメタル。硬質な素材ながら、編目状に穴があいているので重々しさはない。3階までの吹き抜けを見通せ、空間の広がりを実感できる。息子さん夫婦にお子さんが生まれたらネットを柵を設ける予定。